

THE INDEPENDENTS NEWS

起業家インタビュー (NO.24)

橋元 賢次 氏 (株)サイバーテック 代表取締役社長

XML データベース No.1 企業

市場シェア No.1

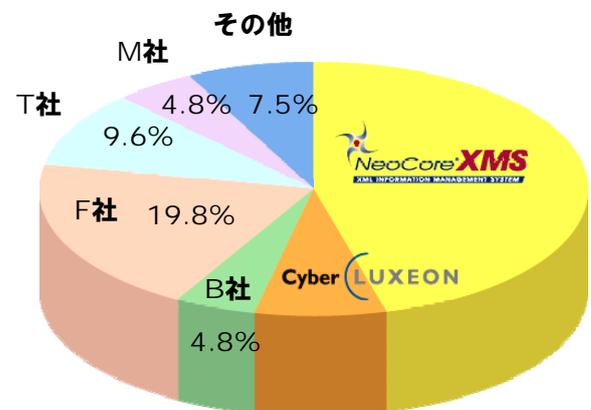
橋元：昨年 11 月に「NeoCoreXMS」国内総販売事業を三井物産セキュアディレクション社から取得しました。従来主力の「Cyber Luxeon」はデータ更新が強いのですが、「NeoCore」は検索機能が強く、従って両者には大変相乗効果があります。元々「NeoCoreXMS」は商用 XML データベースでの市場シェア No.1 です。結果、当社の市場シェアは併せて 53.5%と断トツになり、従来からある受託開発の事業とあわせ、XML データベース事業は非常に好調です。

社運をかけた「Cyber Luxeon」取得

橋元：2005 年に米国ソニックソフトウェア社（以下ソニック社）から取得した「Cyber Luxeon」は社運を賭けた事業でした。技術面でのリスク、語学面でのリスク、共に相当高いハードルでした。しかし社員全員が「やろう！」と言ってくれました。誰か一人でも反対するメンバーがいたら取得を諦めるつもりでした。最悪でも保守サービス事業だけでどうにか回収できると想定して事業取得をしました。

大企業との付き合いが信用力に

橋元：しかしフタを空けると保守の更新をした顧客は 3 分の 2 しかありませんでした。我々が事業を買い取る以前にソニック社は事業撤退を顧客に伝えていたので水面下でデータベースソフトの乗り換えが始まっていた。想定した顧客の数に達せず・・・これは大きな誤算でした。ただ、失敗だとは思いませんでした。社内メンバーが本当に踏ん張ってくれました。おもしろいと感じてどんどん仕事を進めてくれました。また、ビジネス的にもそれまでとは違って超がつくような大企業が顧客になって対外的な信用力に繋がりました。



NeoCore XMS + Cyber LUXEON = 53.5%
(4年連続業界第一)

※ ミック経済研究所調べ。「UNIX-Windows対応ミドルウェアパッケージソフト市場展望2006年度版」「XML-DBパツ

素直な子ども時代～自立したかった高校時代

橋元： 高校卒業までは親の言う通りに従う素直な子でした。父は公務員で毎日夕方に帰ってきて晩酌、母は専業主婦とまったく保守的な家庭でした。高校は大阪・上本町にある清風高校に入学、刈上げ坊主で毎日般若心経を読まされました(笑)。大学は親のリクエスト通りいわゆる「関関同立」を受験、合格しました。しかし、どうしても一人暮らしがしたかったので後期募集の地方国立大学を受験、愛媛大学に合格しました。それでもひと悶着ありましたが、実家から私立大学に通う費用を絶対に超えない、という条件で何とか親を説得してようやく自立ができました。

開放された大学時代

橋元： そんな訳で風呂付の部屋も借りられずバイト、バイトの毎日でしたが、望んでいたことだったので楽しい大学生活でした。さらに車にハマって更にお金が必要でした。昼は家庭教師で夕方は工場の流れ作業、夜は時給650円の居酒屋という毎日です。ソアラを潰して次にRX-7をころがしてました。愛媛の三坂峠のローリング族であり『頭文字D』（しげの秀一原作）の世界でした。

レースに明け暮れた社会人時代

橋元： 就職は、沖 LSI テクノロジー関西にしましたが、いきなり 4月に東京の沖電気工業本社に出向です。しかも八王寺高尾で、大阪に戻りたくて就職したのに突然の東京行きに戸惑いました。結局、仕事そっちのけでレースにのめりこみました。毎週練習して、埼玉の桶川サーキットでシリーズ4位になりました。そして地方選手権に出る資格を得ることができましたが、年間を通してレース参戦するには最低 250万円のお金が必要となり、入社数年の自分にはとてつもないお金が必要となります。「そこまでやるべきなのか？」と疑問に思い地方選手権に参戦することをやめました。地方選手権の中で頭抜きんでるような実力は自分にはあるのかなと疑問に感じていたのも理由となりました。

転職先がなくてプロバイダ事業をスタート

橋元： ちょうどその頃、インターネットコミュニティは黎明期でした。副業でプログラムを組んだり、ネットでレース関係機材を売って稼いでいました。そのうちネット関連の企業に転職したいと思い転職エージェントに相談しましたが、「そんな企業はない」とのこと。どうしようかと考えていたところ、コミュニティ内で吉祥寺の地域プロバイダが管理を引き継ぐ人を募集していることを知りました。そこで 150 万円で事業を買い取り、サイバーテック有限会社をスタートさせました。1998 年 9 月のことでした。サイバーテックという社名は映画『ターミネーター』の工場“サイバーダイン”と“テクノロジー”を併せた造語です。



1973 年 1 月大阪府交野市生まれ

1988 年 4 月私立清風高校

1991 年 2 月愛媛大学電気電子工学科

1995 年 4 月沖 L S I テクノロジー関西

(沖電気工業へ出向)

1998 年 9 月当社設立、代表取締役就任



(株)サイバーテック(CyberTech Corporation)

設立:1998 年 9 月 8 日

資本金:1 億 8050 万円 従業員:60 名

所在地:東京都千代田区神田錦町 3-5-1

興和一橋ビル別館 7 階 Tel:03(5577)8000

自社製品へのこだわり

橋元：プロバイダ事業を大きくしようという気持ちはありませんでした。元々メーカー出身ですから自社製品に対する思いは強くありました。設立してから1~2年は受託の仕事しながら会社運営に関する様々なことを勉強しました。受託開発は食べていくためには必要だと思っはいましたが、仕事が増えるほど人を増やさなくてはならない、ということに疑問を感じていました。



自分を越える技術者を輩出したい

橋元：設立2年までは自分は技術者でした。しかし会社を大きくするためには自分は技術者であってはいけない、外を向く仕事をするのが大切だと感じるようになりました。トップの人がずっと技術者でいることで社内からトップを超えるような技術者が出てこないように見えました。自分以上の技術者を輩出できる会社になりたいと思います。

XMLとの出会い

橋元：プロバイダの設備を引き継いだ後、LinuxとPostgreSQL（*フリーのデータベース管理システム）という、オープンソースの存在を知りました。その後PostgreSQLを拡張し、柔軟なデータベース設計ができるソフト「データベース職人」や、それをベースとしたメール配信ソフトを作りました。そして2001年に出会ったのがXMLです。製品として高い完成度で「これはすごい、データベース職人で実現したかったことが簡単に出来る！」と思い、XMLに係ろうと決めました。

開発拠点はセブ島

橋元：コストを抑えるためにオフシェアでの拠点はずっと探していました。セブ島を選んだのは、中国やベトナムに比べて物価が安定しているからです。技術スキルも遜色ありません。日本人の社員も喜んでセブに行きますし現地スタッフや環境にも馴染んでいます。



一本日はありがとうございました。最後におすすめの本を教えてください。

橋元：『キャズム』（ジェフリー・ムーア著）です。内部統制ソリューション開発に失敗した時に、株主のベンチャーキャピタルの方から紹介していただきました。IT製品のマーケティングに関して、事例をまじえ非常に具体的かつ論理的に書かれています。個人的には、世界に通用するハイテクベンチャーが日本では育ちにくい理由もイメージできました（笑）。

(Interviewed by The Independents 2008.3.17)

「THE INDEPENDENTS NEWS」は㈱インディペンデンツのメンバーと名刺交換させていただいた方々にお送りしております。当ニュースレターがご不要の方、ご連絡先の変更の方は、お手数ですが下記までご連絡をお願いいたします。感想・ご意見もお待ちしております。

㈱インディペンデンツ編集局 Tel:03-3980-2945 ・ Mail:info@independents.jp